出て来んこの爭議を本部の御俗論から岩月の委員に変りえた（岩月の演説に対する拍手を見よ）

一、組織の長はとろうが、特部がケツ〳〵と幸徳の対策を講じてゐるかぎり俺達には何一つまとまらず、あるいは無駄もしない、爭議費用も浪費されてゐる、対策委員会でも出来やうや意味はなかりあるにしても本部員の働きかけは何もなさめてない。

一、大和民労会のぬるま湯的同盟と妥協してサン〳〵俺達をやつつけた、それに対して特部は何の対策も立てずに知らぬ顔してゐるではないか、そのために勇敢な組織の機関紙までもあれこれ言ふオキツクホの民策を用ゐないではないか、敵は分れになつてゐるのだから俺達は自分の力で力強い自覚をつくらねばならぬ。

これ迄ひはないが俺達は無数を会社をせて八カコウてたまらぬ、この多う特の裏切を叩きつけて最高裁に決起的な力に指導ましてくれる全国的な組織労働者の援護のもとに全市的の爭議を巻き起すことなくしては絶対に勝利を与えられない。

以上の諸要求はこうだ

一、最低賃金三千五百円にしろ！　一、賃金を少、今六歩よこせ！　一、首切絶対反対！　一、強制勧誘責任者勧告反対！

一、切崩策反対！　一、仮処分の取消！　一、組合幹部の一部につき五名、場合は区一四人つき五名

指導部一部につき五名出せ！　一、傷病の陽の者は規約が出せ！　一、月二回会議にしろ！

一、年二回昇給しろ！　一、全爭決起大会は強力なる応援の下に！

東京都総爭決起大会有志

別記（二）

資本家の手先にまで

オケブレた東京合同労働組合!!

全日本の労働者農民諸君！

新聞報道の協定によつて、との妥協も俺達の爭議について書かないか俺達東京産業は米軍配達夫は去る三月十六日の夕刊から、米軍配達爭議始まつて以来未曾有のストライキを戦つてゐる。爭議に入つてから既に十七日、参加者総数二十数名、配達停止数五万部部に及んでゐる。最も困難だと言はれてゐた米軍爭議が、遅くも大規模に斯も強力を持つて戦はれてゐるということは一面東京都労働者四万一千名の力強さである。若月些部が、何にひとい様子をやつてゐるかといふことの活教材、しかも役員労働者月は暴力団大和民労会をして、自重会長、或は深沢ひをりに、幾回となく俺達を襲撃させた。しかし其の都度俺達の意気込みを目の当りに見て帰つた。コロツキ共は、あきらめたと見えて其の後来なくなつた。今度来やかつたら今度こそは血の雨を降らせてやる積りだ。

俺達はあくまで元気だ。俺達は最後の一人になるまで俺達の陣営を守り続ける積りだ。しかしとうとう来くて見ても我慢出来ないのは東京合同特部幹部の裏切り行為だ。俺達労働者のカ立ちあがり入り易い組合利己心からだとは言ひながら、政治的か資本家若